

山口県がん化学療法チーム研修会開催報告



山口大学医学部附属病院
腫瘍センター事務局

令和8年3月14日（土）に、山口大学医学部附属病院腫瘍センター主催で、山口県がん化学療法チーム研修会『irAE 合併症が懸念される患者さんに対する治療について』をWEBで開催しました。本研修は、山口県のがん化学療法の医療レベルの更なる向上を図るために、山口県内のがん診療連携拠点病院を含めた化学療法を行っている医療機関の多職種（医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・MSW等）によるチーム研修となっており、7施設（陪席1施設含む）31名の参加がありました。

当院の永野浩昭腫瘍センター長の開会挨拶に始まり、次いで当院の井岡達也副センター長から研修会概要についての説明後、山口県立総合医療センターの田島邦彦医師と徳山中央病院の山路義和医師の講義が行われました。

《講義内容》

「稀な irAE～知っておいて 損はない」

山口県立総合医療センター 消化器内科部長 田島邦彦

「免疫チェックポイント阻害剤による間質性肺炎」

徳山中央病院 呼吸器内科主任部長 山路義和

各参加施設紹介の後、グループワークの症例提示が、本院の井岡医師からあり、指定された症例について各施設で検討を行いました。多職種で問題点を抽出し、解決策を考え、最後に発表していただきました。研修会全体を通じて様々な意見や質問が活発に出され、参加者の真剣さや意欲の高さを感じることができました。

参加者からは、「irAEの臨床上気をつける点が理解でき、他施設の原状や意見を聞くことができ良かったです。」、「irAEを早期発見するためには医師、薬剤師、看護師だけでなく、MSWや社会資源なども重要だと改めて感じた。」「実際の事例での検討など、即現場でいかせると思いました。」など非常に多くの意見が寄せられました。

令和2年度から年1回開催している研修会で毎年ご好評をいただいております。参加者の皆さまのご協力もあり、大きなトラブルもなく有意義な研修会となり、無事終了することが出来ました。

腫瘍センターでは、これからも医療従事者に向けた様々な研修会を計画していきたいと思っておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。